

消防庁長官から感謝状を授与

～永年にわたる消防資機材の寄贈を評価～

一般社団法人日本損害保険協会（会長：新納 啓介）では、地域の防火・防災力の強化を目的として、全国の市町村（離島除く）には1952年度から、離島には1982年度から、毎年、消防資機材を寄贈しています。

今般、永年にわたる消防資機材の寄贈事業への取組みにより消防防災行政の進展に尽力をしたとして、2024年3月22日（金）に原 邦彰 消防庁長官から感謝状が授与されました。



その後行われた原長官との懇談では、大規模災害時の初期消火体制や応援部隊の被災地への迅速な派遣のあり方、損保協会が寄贈しているような小型ポンプ車の有用性等について、今回の能登半島地震の状況も踏まえ意見交換を行いました。

これまで減少傾向にあった出火件数は、2021年、2022年と増加に転じ、2023年も1～9月までの火災発生状況は、前年比4.3%の増加となっています。日本損害保険協会では、今後も総務省消防庁や全国の消防機関と協力して、防火や防災など安全で安心な街づくりに向けた取組みに貢献していきます。



感謝状贈呈（左：原長官、右：大知専務理事）



懇談（手前右：原長官、手前左：畑山消防救急課長、奥右：大知専務理事、奥左：佐々木業務企画部長）